

年報

名古屋大学大学院人文学研究科
教育研究推進室

2020

目 次

巻頭言	名古屋大学大学院人文学研究科教育研究推進室室長 池内 敏	i
-----	------------------------------	---

I	教育研究推進室の活動報告	1
----------	--------------	---

1.	大学院生支援事業	1
1-1	研究発表支援事業一覧（2020年度）	1
1-2	フィールド調査プロジェクト一覧（2020年度）	1
1-3	フィールド調査プロジェクト報告書（2020年度）	
	天野紗緒里 スピリチュアリティの実践による癒しの体験談の聞き取り調査	2
	藤井良樹 ゲイ男性のカミングアウト ——心理的プロセスとセクシュアリティを示唆する言動に着目して	3
	松本 柊 近世中後期における朝幕藩関係の再構築 ——尾州茶屋家と尾張徳川家・尾張藩重臣との関係を中心に	4
	武 穎 景徐周麟関連史料と作品集の所蔵状況及びテキストに関する調査	5
2.	教育研究推進室主催の行事（FD・ワークショップ・その他）（2020年度）	7

II	人文学研究科の教育・研究活動	8
-----------	----------------	---

1.	教員の著書（単著）一覧（2020年度）	8
2.	教員の自著紹介	9
	古尾谷知浩『日本古代の手工業生産と建築生産』塙書房	9
	伊藤大輔『鳥獣戯画を読む』名古屋大学出版会	10
	李 澤熊『日本語の意味研究の新たな扉を開く——意味分析の方法と実際』開拓社	11
	山本直人『縄文時代地域社会の実態』同成社	12

III	各種データ	13
------------	-------	----

巻 頭 言

名古屋大学大学院人文学研究科教育研究推進室から、『年報』2020をお届けいたします。

昨年度は、大学院生等の研究及び教員の教育研究への支援といった、教育研究推進室の従来の事業をできるかぎり継続しつつ、コロナ禍における対応にとどまらず、ポストコロナを見据えた対応を検討し続けた1年間であったように思います。

大学院生に対しては、博士前期課程・後期課程の各2年次を対象に、学位論文の執筆に必要な調査活動を支援する「フィールド調査プロジェクト」を例年通り行いました。本事業では10件のプロジェクトが採択されましたが、全ての院生が、コロナ禍による調査の断念や大幅な計画変更を迫られました。しかし、こういった厳しい環境下でも4件のプロジェクトが完了し、教育研究推進室としましても、ポストコロナへ向けて多くのことを学ぶことができました。彼らの渾身の力を注いだ報告書をご高覧いただければ幸いです。

また、もう1つの院生支援、「研究発表支援事業」ですが、従来は国際研究集会で発表する院生に会場までの往復旅費を支援しておりましたが、昨年度は研究集会が中止になることが多く、開催された場合でもほとんどがオンライン開催になったため、旅費支援が皆無となった1年でした。会場で他の研究者と直接交流する機会を奪われ、大学院生にとってもつらい1年だったと思います。しかし、オンライン開催でも研究発表を行いたいという強い志を持った院生2名に、大会参加費を支援することができました。この支援は、今後も継続する予定です。

その他、学術振興会特別研究員応募説明会は、春期分は中止となりましたが、Zoomを活用した秋期分は無事に開催することができました。また、博士研究員を対象とした科研費申請アドバイスも例年通り行うことができました。さらに今年度は、採択決定後の手続きに関するフォローについても検討を始めたところです。高水準の教育及び研究支援を継続するためにも、今後も不断の努力を続ける所存です。

教員の研究活動につきましても、緊急事態宣言等で出張等の移動制限が課せられる中、調査活動や学会活動などに大変な苦労があったことと思います。しかし、そのような中において、多くの教員が執筆活動等、できることに精一杯励んだ1年だったのではないかと感じます。今年度は、例年よりも多く、4人の教員に自著紹介を寄稿していただきました。ご関心をお寄せいただけたならば、ぜひ実際の書物をお手に取ってみてください。

一方で、FD等ワークショップの開催につきましても、やはり盛況というわけにはまいりませんでした。昨年度は、従来の活動にインターネットを積極的に取り入れた1年だったと思いますが、試行錯誤であったことは否めません。コロナ禍における高度な研究活動と質の高い教育を支えるためにも、今年度は、オンラインによる活動をより積極的に取り入れていけたらよいのではないかと思います。

以上の活動全般の評価と分析のためにも、各種データの掲載について、全体的に見直しを行いました。

『年報』2020により、名古屋大学大学院人文学研究科の教育・研究活動の状況を、広く皆様に知っていただくとともに、ご意見等を頂戴できれば幸いです。

名古屋大学大学院人文学研究科教育研究推進室室長
池内 敏

I 教育研究推進室の活動報告

1. 大学院生支援事業

1-1 研究発表支援事業一覧（2020年度）

氏 名 (分野・専門) 学年※	発表題目（使用言語）	研究集会の名称 開催地（都市名・国名）	研究集会会期 (本人発表日)
楊 佳嘉 (日本文化学) 3年	The Thought of Aggression under the Guise of “Goodwill” Focused on Hayashi Fumiko’s Travel to China in 1936 (英語)	Association for Asian Studies (AAS-in-Asia) オンライン開催	2020年 8月31日～9月 4日(8月31日)
寺井雅人 (英語教育学) 1年	Effects of Learning Direction on EFL Vocabulary Acquisition (英語)	The American Association for Applied Linguistics (AAAL) オンライン開催	2020年 3月20～23日 (期間中録画掲示)

※本支援事業の採択者は、すべて博士後期課程（当時）の学生である。

1-2 フィールド調査プロジェクト一覧（2020年度）

氏 名 (分野・専門) 課程※	プロジェクト題目	調査訪問機関（所在地）	調査月
天野紗緒里 (文化人類学) 後期	ハワイ州におけるスピリチュアル・ツアーを主催するヒーラーのライフヒストリーと聖地への言説の収集	個人宅等（愛知・半田市／青森・十和田市／神戸市／大阪市／岐阜・本巣市）・青森県庁（青森市）・奥入瀬渓谷／十和田神社（青森・十和田市）・岩木山（青森・弘前市）・廣田神社（兵庫・西宮市）・生田神社／湯島神社／北野天満社／保久良神社（神戸市）・高野山（和歌山・高野町）・比叡山／鞍馬山／愛宕山（京都市）	9～3月
崔 小萍 (日本語教育学) 後期	JFL 環境における日本語学習者の反復構文の誤用及び教師のフィードバックによる効果の研究	COVID-19の影響で調査を断念	
方 美香 (考古学) 前期	日本統治時代の台湾の瓦の製法及び流通について	COVID-19の影響で調査を断念	
藤井良樹 (ジェンダー学) 後期	ゲイ男性のカミングアウトー心理的プロセスとセクシュアリティを示唆する言動に着目して	市内飲食店等（福岡市／大阪市）	3月
林 哲也 (日本語教育学) 前期	作動記憶訓練による効率的な日中同時通訳技能養成研究	COVID-19の影響で調査を断念	
小山 琢 (西洋史学) 前期	ミノア文明建築における水祓の間の構造分析	COVID-19の影響で調査を断念	
李 昊天 (西洋史学) 前期	中エジプトのテッラコッタ人像の考古学的研究	COVID-19の影響で調査を断念	
松本 柊 (日本史学) 前期	近世中後期における朝幕藩関係の再構築ー尾州茶屋家と尾張徳川家・尾張藩重臣との関係を中心に	徳川林政史研究所（豊島区）・東京大学史料編纂所（文京区）・国立公文書館（千代田区）・鶴舞中央図書館／蓬左文庫（名古屋市）	8～10月
栄川三紀子 (言語学) 後期	ベンガル語を母語とする日本語学習者を対象としたベンガル語無声歯擦音と日本語無声歯擦音の音声的特徴	COVID-19の影響で調査を断念	
武 顕 (中国語・中国文学) 後期	景徐周麟関連史料と作品集の所蔵状況及びテキストに関する調査	内閣文庫／宮内庁書陵部／国会図書館（千代田区）・岩瀬文庫（愛知・西尾市）	11～3月

※本プロジェクトは、2年次（当時）の学生を対象としているが、休学期間等の関係で、一部3年次の者がいる。

スピリチュアリティの実践による癒しの体験談の聞き取り調査

天野紗緒里 文化人類学分野・専門 博士後期課程3年

研究背景 近年、様々な宗教に通底する概念を個人がブリコラージュして解釈し、その信仰・実践を行うスピリチュアリティという現象が、現代的な宗教形態の一つとして議論されている。2000年代以降の日本では、スピリチュアリティの「癒し志向」が指摘されているが、その実態を明らかにするための個別の事例研究には余白が多い。本プロジェクトは、「ハワイ州におけるスピリチュアル・ツアーを主催するヒーラーのライフヒストリーと聖地への言説の収集」として助成を受けたが、コロナ禍により計画を変更した。具体的には、国内でスピリチュアリティの実践提供者や愛好家を対象に、癒しの体験とパワースポットについて聞き取りを行い、癒しが必要となった原因と癒しの実感、パワースポットと癒しの関わりについて分析した。

調査対象・調査方法 本プロジェクトが対象としたスピリチュアリティの実践提供者は、第六感を用いた占いをする人やエネルギーワーク（気功やレイキヒーリングなど）をする人である。愛好家は定期的にスピリチュアリティの実践を受けている人である。愛知県3人、青森県1人、兵庫県1人、大阪府1人、長野県1人、岐阜県1人の計8人（男2人、女6人）のうち、6人が実践提供者で2人が愛好家である。このうち7人の年齢は40代後半～50代後半で、概ね10年以上、スピリチュアリティの実践に関与している。残りの1人は30代でスピリチュアリティに関心を持ったのは最近である。調査は2020年9月～2021年3月にかけて、十分な感染症対策をとったうえで行った。

結果と考察 インフォーマントがスピリチュアリティの実践に初めて参加したきっかけは偶然性が高く、癒しへの期待値は低かったことが明らかになった。人生苦として生じた出来事は、魂の学びのために自分で決めて生まれたとして個人主義的な宿命論で解釈されていた。出来事に対してネガティブな認識や感情を抱いて苦しむ主な原因は、現世の親子関係で生じた自己の歪みとして語られる傾向があった。しかし、一旦、生きづらさを親のせいにしたとしても、歪んだ自己の修正は自己責任とされる。これは現在の親子関係の困難さが前世の関係性から説明される場合でも同様である。そして、現在の関係性から学ぶことがあると解釈される。こうした認識の下、蓄積された未消化の負の感情を解消することで癒しを実感されていた。先行研究ではありのままの自己肯定が癒しとして捉えられているが、感情の解放が不十分なうちは真の自己肯定には至らないと認識されているため、自己肯定以前に、感情の解放が重要であるという認識があった。

パワースポットは、そのほとんどが従来からの観光地であった伝統的な宗教施設で展開している。先行研究では、スピリチュアル好きな人は、現地の宗教的・地域的文脈に短慮な自己中心的信仰実践を行う人として捉えられがちである。インフォーマントは多くの場合、自然の中でスピリチュアリティの実践を行い、参拝方法も一般的である。また、現地の聖地へ行く場合は、事前に情報収集したり、地元の人から許可を得ていると語った。彼らは現地の信仰を尊重していると認識しており、先行研究の描き方とは必ずしも一致しない。また、パワースポットはいい場所・悪い場所があると考えられているため、パワースポットを判別できる人からの情報や自分でいいと感じた場所が選ばれていた。自然の力が浄化と癒しの効果を高めると認識され、自然の中に行くこと、特に、そこで瞑想を行うことが、スピリチュアリティの実践として積極的に行われていた。

こうした個々のスピリチュアリティの実践は、最終的には輪廻する〈私の御霊磨き〉の物語に集約されていくため、本プロジェクトの結果を踏まえ、それぞれの実践がどのように関連して総体をなすのかについて今後、さらに考察したい。

ゲイ男性のカミングアウト ——心理的プロセスとセクシュアリティを示唆する言動に着目して

藤井良樹 ジェンダー学分野・専門 博士後期課程2年

調査概要 本調査は、研究プロジェクト「ゲイ男性のカミングアウト—心理的プロセスとセクシュアリティを示唆する言動に着目して—」による助成金を得て実施された。調査者は、「ゲイ男性がカミングアウトに関してどのような心理プロセスを経るのか」をリサーチクエスションとし、半構造化インタビューと構成主義的グラウンデッドセオリーアプローチによる分析を通して研究している。本調査では、計4名の調査協力者を募ることができた（なお、本調査実施までに5名の調査協力者へのインタビューおよび分析が終了していた）。

手続き 2021年3月16日～17日に福岡県在住の調査協力者2名へインタビューを行った。インタビューは福岡市内の某喫茶店にて実施され、一人当たり30～40分であった。次に、同年同月22日～23日に大阪府在住の調査協力者2名へインタビューを行った。インタビューは大阪市内の某喫茶店にて実施され、一人当たり30～40分であった。インタビュー前に、参加は自由意志によるものであり、途中の辞退、インタビュー終了後の辞退がともに可能であること、辞退による不利益も被らないことを説明した。そのうえで、研究の目的と意義、調査方法と所用時間、研究成果の公表の可能性、謝礼、研究者情報、本研究が名古屋大学大学院人文学研究科の研究倫理審査で承認されていること（承認番号：NUHM-19-004）を説明し、参加同意書に署名をしてもらった。その後、調査協力者の同意を得たうえで、インタビューを録音した。調査終了後、インタビューのトランスクリプトを作成し、データのコーディング作業を行った。そして、既済のデータと比較・検討を行った。

結果 既済調査の結果に本調査の結果を合わせたところ、①ゲイであることを隠す、②隠している感覚に罪悪感を覚える、③異性愛者を演じる、④カミングアウトは緊張する、⑤後ろ盾ができて安心する、⑥カミングアウトしなくてもいいと思う、⑦LGBTに関するトピックへの異性愛者の反応を見る、⑧女性の方がしやすい、という理論的カテゴリーが得られた。これらは暫定的なカテゴリーではあるが、①～⑥は、ゲイ男性がカミングアウトにおいて経るプロセスに関わるものである。さらに精緻化し、その概観を描き出した。⑦は、その手法が「日頃のコミュニケーションから判断する」、「同性愛への印象について質問をする」などいくつかのパターンがあった。より具体的な検討を行えるよう、引き続き掘り下げていきたい。最後に、⑧は、カミングアウトの相手に関わるものである。⑧についてはまだデータが十分とは言えない。家族や友人など相手による影響を、今後の調査によって明らかにしていきたい。

近世中後期における朝幕藩関係の再構築 ——尾州茶屋家と尾張徳川家・尾張藩重臣との関係を中心に

松本 柊 日本史学分野・専門 博士前期課程2年

調査概要 本プロジェクトは、近世中後期の朝廷関連の儀礼における尾州茶屋家の動向を、特に尾張藩との関係性に着目して検討することで、朝廷を含みこんだ幕藩関係（朝幕藩関係）について、「呉服師・呉服所」という新たな視角から重層的に再構築することを目指すものである（以下、本稿では呉服師は將軍（幕府）の、呉服所は大名（藩）の御用呉服商とそれぞれ定義する）。筆者は、江戸時代を通じて將軍家・尾張藩主家の呉服御用を担った御用達町人で、江戸・名古屋・京都を拠点に活動した尾州茶屋家を研究対象とし、同家の職務実態や、幕藩権力における位置づけについて研究を進めている。これまで筆者は、安永年間（1772-81）の尾州茶屋家が、尾張藩と幕府、諸藩とを繋ぐ「内証（非公式）交渉」ルートの1つとして機能したことを、具体的事例を通して明らかにした。ただし、この成果は尾州茶屋家当主の日記にのみ依拠したという史料的制約があり、同家の複層的な性質について十分に検討できたとは言い難い。この点に留意し、今回の調査では尾州茶屋家の史料に加え、尾張藩重臣家の史料収集・分析に力点を置いた。

調査成果 まず、京都において尾州茶屋家が、尾張藩「呉服所」としての役割を果たしていたことを指摘したい。近年の研究で、呉服所が本来の職務である物品調達以外にも様々な職掌を担い、大名の京都での交際儀礼にとって不可欠な存在であったことが明らかにされている。尾州茶屋家も尾張藩呉服所として、諸藩の呉服所と類似した職掌・役割を担っていたことは、先行研究や関連史料からも推測される。

ただし、筆者が尾州茶屋家の特殊性として強調したいのは、尾張藩呉服所としての役割を果たしたのは、実際には同家の在京手代であった点である。このことは、延享2（1745）年版「京羽二重大全」で、在京手代である茶屋嘉右衛門が、当主と共に尾張藩呉服所として掲出されている点に示唆的である。嘉右衛門は、元文6（1741）年の尾州茶屋家側の史料では、尾張藩初代藩主・徳川義直の代から京都御用に従事していたとされる。また、江戸時代初期の尾州茶屋家の動向については不明瞭な部分が多いが、尾張藩側の史料によると、貞享4（1687）年に東山天皇即位を祝して幕府・諸藩から朝廷へ献上が行われた際、嘉右衛門は京都で献上品の調達や献上先への問合せに従事し、現地で尾張藩使者を補助する一方、当主は江戸で尾張藩主に近侍していた、とする。このことは、尾張藩御用に関する当主と手代の職掌が、遅くとも貞享年間には分化し、当主は藩主への近侍、在京手代は呉服所といったそれぞれ固有の役割を担っていたことを推測させる。

次に、19世紀前期の尾張藩から朝廷への献上儀礼を事例に、尾州茶屋家の職掌・役割について確認する。文政8（1825）年の女御入内の際、当主は経済的窮迫により幕藩御用を停止し、「引籠」の状態にあった。それに関わらず、儀礼における尾張藩使者への随伴、献上先や幕府役人への問合・案内役といった、朝幕藩間を水面下で繋ぐ役割を担ったのは、貞享年間と同じく在京手代であった。当該時期の尾張藩側の史料には、嘉右衛門が尾張藩使者の儀礼上での失態を事前に防止する様子や、作法をめぐって公家家臣と応酬する様子が記される。また、嘉右衛門が経済的窮迫を理由に案内役の辞退を藩側に申し入れるも、藩が金銀・衣服を下賜することで随伴を実現させたことも分かる。このことは、尾張藩が嘉右衛門（在京手代）を、京都で使者に求められる礼儀・作法に知悉していた点において積極的に評価していたことを意味すると考えられる。

以上より、幕藩権力が尾州茶屋家の当主・手代に求めた役割が異なっていたことが認められる。手代の役割は、経済的窮迫の中で同家が幕末まで存続しえた理由を考察する上で、重要な視角であると言えるだろう。なお、本プロジェクトは新型コロナウイルスの影響で、当初の調査計画の大幅な縮小を余儀なくされた。手代の役割の具体的な検討や、他の呉服師・呉服所との相対的な比較も、尾州茶屋家を朝幕藩権力との関係で位置付ける上で必要であろう。尾州茶屋家の本業である呉服御用の分析も含め、今後の課題としたい。

景徐周麟関連史料と作品集の所蔵状況及びテキストに関する調査

武 頌 中国語・中国文学分野・専門 博士後期課程2年

はじめに 景徐周麟は五山文学後期を代表する詩僧であり、作品集に『翰林葫蘆集』がある。『翰林葫蘆集』は、上村観光編『五山文学全集』（第四冊）で活字本があるが、校勘記などは附されておらず、一部作品の文字には解釈上疑義がある。そのため、各所に所蔵される『翰林葫蘆集』の写本、また、内閣文庫所蔵『惟高詩集』における景徐周麟文明期詩会関連作品について現物調査を行い、活字本との文字の異同を検討した。他、続群書類従所収『宜竹残稿』も景徐周麟の七言絶句のみを集めた書であり、文字の異同について調査を行った。以下、各本についての調査結果をまとめる。

岩瀬文庫所蔵『翰林葫蘆集』（天明元（1781）写一冊） 書籍は黄色い表紙の薄い一冊、封面には『翰林葫蘆集 全』と書いてある。「観世小次郎画像讃」という一篇のみ収録されている。該当篇は上村観光編『五山文学全集』第四冊『翰林葫蘆集』第十一巻、眞賛五五七一五五八頁に所収。全文と後記など合わせて十一頁（紙六枚）ある。訓点付きで、字の違いが多く、そのために理解が違ってしまふようなところがある。何カ所もある。

宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵『翰林葫蘆集』（徳山毛利本十六冊、書写年代不明） 茶色表紙の十六冊、各冊の封面にジャンルが書かれている。印文は「（左から右）明治二十九年改濟 徳山（上）毛利家蔵書（下）第 番 共 冊」であり、本文から見て、詩以外句読点あり、地名、人名などに傍線が引かれている。訓点なし。校異について、活字本と比べて、詩題の「東坡羹」を「東坡」と書き落とした例がある。詩の内容を活字本と対照してみると、不適切な箇所が多いが、全集より若干適切どころがある。ほか、十一冊目と十二冊目は「入寺、法語」で、十六冊は「乗払、釣語など」で、活字本に未収録である。

国立国会図書館所蔵『翰林葫蘆集』（写本十五冊、書写年代不明） 二帙十五冊である。黄色い封面で、印記に「帝国図書館蔵」とあり、「明治八年文部省交付」、「足利学校公用」の記載がある。書名は各冊冒頭部分は『翰林葫蘆集』で、後記の部分は『翰林葫蘆集』となっている。本文には、朱点が施され、一部人名、地名に傍線が引かれる。また、一部の専門用語の傍に注釈があり、例えば、「師子國」について、「今ノセイロ島」、「鳥菟国」には「今ノヨーチャナ地方」などである。字の違いは、活字本と対比してみると、やや多く、活字本の「大虚」、「太守」などが「太虚」、「太守」であるなどからして、割と意味的に適切に見える箇所が多い。ジャンルと内容について、四冊目と十二冊目、十四冊目は「入寺、法語」、「乗払、釣語」で、活字本に未収録である。

内閣文庫所蔵『翰林葫蘆集』（寛文（1661-1673）写十三巻十三冊、江戸初期写六巻六冊） 寛文写本は青い封面の十六冊、ジャンルはほとんど記されず、ジャンルごとの収録は乱れているように見られる。江戸初期写本は黄色い封面の六冊で、ジャンルは各封面に記されている。主に詩部について調査を行ったが、二写本とも、句読点や地名、人名に傍線があり、活字本と字の違いはあまり多くない。なお、入寺、法語、乗払、釣語など活字本に未収録の作品も比較的完全に収録されている。

蓬左文庫所蔵『翰林葫蘆集』（室町写本、駿河御譲本二冊） 黄色い封面で、内容は、一冊目は入寺、法語（活字本未収録、徳山毛利本十二冊、寛文写八冊目、江戸本一冊目に相当）で、二冊目は出衆、入衆で、出衆、入衆はほかの写本より比較的完全に収録しているようで、文学性が見られ、検討する価値がある。



図1 内閣文庫所蔵寛文写十三卷十三冊公開画像二枚と内閣文庫所蔵江戸初期写六卷六冊公開画像二枚
(国立公文書館デジタルアーカイブ)

内閣文庫所蔵『惟高詩集』所収景徐周麟詩 永禄元年(1558)の作品で、筆録の雑録詩集で、茶色の封面に「惟高詩集 惟高和尚真跡」と記され、禅林の詩会作品などが収録されている。景徐周麟の漢詩十二首が収録されていて、大体文明十一年(1471)から永正八年(1511)の間の作品である。そのうち、「楊家夜遊園」と「五柳巾」は活字本に未収録である。活字本に比べ、何カ所か字の違いによる解釈の違いも生じそうであり、詩会におけるほかの参加者の作品と比較でき、景徐周麟の当時の文壇における地位と文筆の特徴がわかる重要な資料である。

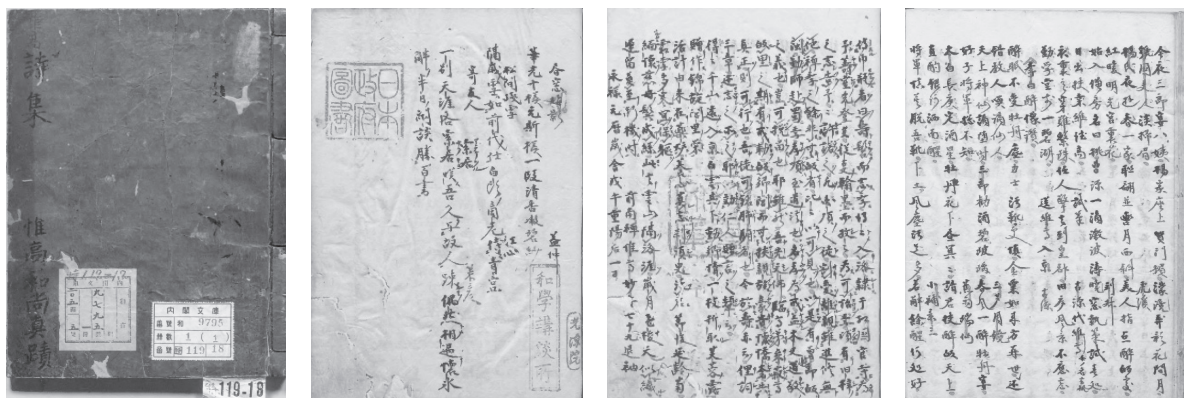


図2 内閣文庫所蔵『惟高詩集』公開画像(国立公文書館デジタルアーカイブ)

続群書類従所収『宜竹残稿』 続群書類従巻第三百卅七に収録されている。『宜竹残稿』は『翰林胡蘆集』における七言絶句のみを抄録した集である。続群書類従による解説には、「山水草木花鳥を詠んだもの。交友との贈答の詩が殆んどで、禅的風格に乏しい」との記載がある。『翰林胡蘆集』の活字本と対照してみると、詩題の「書隠」を「画隠」と記した誤りもあるが、活字本所収「扇賛三首」における「高柳風涼拂回來」の「拂回」を、「拂面」と記し、より適切な箇所がある。また、「春江白鷗」詩の転句と結句「人門世事春江外、不有此清与此閑」は『宜竹残稿』では「除春江外人間世、不有此清兼此閑」とはっきりとした区別があり、意味的には検討、参考ができるような箇所が見られる。

おわりに これまでの閲覧、調査により、活字本と各写本の比較、校勘ができ、作品の精読と検討に大きな参考となる。今後、今回の調査では閲覧がかなわなかった東京大学図書館所蔵本などの関連写本と史料に関して調査を行う予定である。

2. 教育研究推進室主催の行事（FD・ワークショップ・その他）（2020年度）

年 月 日	発 表 者	題 目 ・ 概 要 等
2020年12月 7 日	愛葉由依・高畑早希	日本学術振興会特別研究員応募説明会
2021年 3 月 4 日	天野紗緒里・武頼	フィールド調査プロジェクト報告会（第 6 回教育研究推進室主催ワークショップ）

Ⅱ 人文学研究科の教育・研究活動

1. 教員の著書（単著）一覧（2020年度）

著 者	書 籍 名	出 版 社	発行年月
山本直人	縄文時代地域社会の実態	同成社	2020年 5 月
塩村 耕	江戸人の教養——生きた、見た、書いた。	水曜社	2020年 7 月
日比嘉高	プライバシーの誕生——モデル小説のトラブル史	新曜社	2020年 8 月
李 澤熊	日本語の意味研究の新たな扉を開く——意味分析の方法と実際	開拓社	2020年11月
古尾谷知浩	日本古代の手工業生産と建築生産	塙書房	2020年12月
伊藤大輔	鳥獣戯画を読む	名古屋大学出版会	2021年 2 月
北村陽子	戦争障害者の社会史——20世紀ドイツの経験と福祉国家	名古屋大学出版会	2021年 3 月

2. 教員の自著紹介

古尾谷知浩『日本古代の手工業生産と建築生産』塙書房

本書は、文献史料に基づいて、律令国家がどのように手工業生産・建築生産を掌握していたのか、あるいはしていなかったのかを検討することを目的としたものである。

筆者はこれまで、天皇の家産制の問題と手工業の問題を軸に研究を行ってきた。天皇家産制研究では、太政官に統括された一般官僚機構と、天皇に直接結びついた天皇家産機構が律令国家の支配の両輪であったこと、天皇家産機構は天皇発願寺院と密接に関係することを明らかにした（『律令国家と天皇家産機構』塙書房、2006）。また、手工業史研究では、技術史的観点を加味し、天皇家産機構による手工業生産という類型を抽出した（『文献史料・物質資料と古代史研究』塙書房、2010、『漆工房と漆紙文書』名古屋大学出版会、2014）。

しかし、筆者に限らず、これまでの手工業史研究は、瓦・土器・金属器など手工業の分野ごとに個別に検討するにとどまる傾向にあった。天皇家産機構による生産を考えた場合、それぞれの製品の生産は、建造物を最大の製品として、宮殿・官衙・寺院を造営し、そこで儀式・政務・法会などの営みを行うという目的に収斂していたはずである。したがって、研究の方向性も、建築生産や、施設で行われる儀礼・政務まで視野に入れなければならない。そこで、本書では、前著に引き続き手工業生産の問題を扱うとともに、次の課題として建築生産についても検討した。

従来の手工業生産史研究や建築生産史研究においては、「官営工房論」が主張されることが多かった。しかしながら、それは「アジア的生産様式」に囚われた結果のように思われる。これに対し本書では、生産の意志の発現から生産現場への伝達に至る過程、生産手段の所有、労働力の確保・組織化、技術の伝達、製品の使用・消費といった論点に着目して、「官営工房論」の再検討を行った。具体的には、第一部「手工業生産」において鉄製品・木製品・繊維製品・窯業製品・神社に奉獻する神宝の生産について、第二部「建築生産」において宮殿・官衙・寺院の造営、修理について扱い、「官」つまり律令国家がどこまで生産を掌握しているのかを明らかにした。

上記の検討を踏まえた本書全体の結論は以下の通りである。奈良時代の手工業生産において、律令国家が管理したのは、天皇への奉仕や神事に関わる製品の生産に限られ、その外側には広範に民間の手工業が展開していた。一般的には、律令国家は、すでにできあがった製品を、対価なしの租税あるいは対価を支払う交易の形で調達していたのであった。また、建築生産においては、律令国家が管理していたのは、宮都や天皇発願寺院等の造営に限られていた。それ以外の寺院等については造営修理費用を官が負担することは原則としてではなく、技術移転を国家が積極的に図った形跡もない。一般寺院の造営修理費用の調達は、当該寺院およびそれを支える檀越の自助努力に委ねられていた。つまり、手工業生産においても、建築生産においても、国家が生産を直接掌握していたのは、天皇家産機構によるものに限られていたのである。

さて、本書では、主として奈良時代の手工業・建築生産を扱ったが、平安時代については部分的に言及してはいるものの、不十分なものととどまっており、これについても検討することが次の課題となる。具体的論点として、平安時代初期における御願寺の創建、宮殿や既存寺院の再建・修造、地方官衙・寺院の修造などが挙げられる。本書成稿後、すでに、「伊賀国玉瀧杣と天皇家産制的建築生産」（『ヒストリア』279、2020）にて、宮殿・御願寺修造に必要な木材の調達について、「親王禪師」と東大寺・造東大寺司（『続日本紀研究』424、2021）にて、奈良時代末～平安時代初期における寺院修造と僧侶の関係について論じており、今後も研究を蓄積していきたいと考えている。

伊藤大輔『鳥獣戯画を読む』名古屋大学出版会

本書執筆の動機は単純で、大学で「鳥獣戯画」の講義を行おうとしたことに始まる。しかし準備を始めて分かったのは、この作品が体系的な授業を構成しにくい素材であるということであった。先行研究は諸説乱立し、特に主題論においてはその傾向が強かった。そのため授業以前に、自ら論理的見通しを立てる必要に駆られたのである。そして主題論に関する先行研究を読むうちに気がついたのは、「鳥獣戯画」が何を描いたものであるのかという「謎」を説明するのに、多くの論者が、仏教の教説や世俗の説話など、作品外の言説と結びつけているということである。例えば、猿は神仏の使いであるとか、兎は月の兎に由来するとか、川は清滝川であるなど、描かれた図像を言語によって実定的に定義しようとする態度である。

しかし研究の現状は、そのような方法には限界があることも示しつつある。各論者の多様な説はそれぞれに個性的で興味深いものであるが、相互に批判性を持たない単発の仮説が羅列されるだけで、研究は悪しき相対主義に陥ってしまっているように見える。多様な言説が無関係に併存する研究の現状は、総体として俯瞰してみると、「この部屋には机があり、かつまた机はない」という矛盾命題を述べているようでもあり、あるいは「この部屋には机があるか、または机が無い」というトートロジーを述べているようでもある。判断を回避した「なんでもあり」の命題は、ヴィトゲンシュタインが指摘したように、言語の極北であり、意味のある内容をまったく述べていないと言わざるを得ない。

言い換えれば、これまでの主題論は訓詁注釈の学に近かったわけだが、猿や兎についての言説を大量に集めても、主題の理解には到達し難いということである。むしろ注釈的な方法の積み重ねによって明らかになったのは、この作品が唯一の正解に至ろうとする求心的な読みの試みに強く抵抗するという事実、その結果、言語の外部、空白、非在の方が前面化してくるということである。だとすれば、言語の限界を踏まえて、それでも相対主義を回避するには何が可能かということを考えねばならないであろう。

少なくとも現状において、謎の「解」が言語によっては到達困難なものだとすれば、言葉によって謎を解くという姿勢を一旦離れて、それを絵画的な表現要素の一つとしてとらえ直してみることも一つのアイデアではなかろうか。それは丁度、ジョルジョーネの「嵐」において、主題の分からなさに対する不安が、画面に描かれた嵐の情景の不気味さと重なり合ってくるのと同じ仕組みである。あるいは「彦根屏風」における主題の曖昧さが、画中のぼんやりと沈滞した気分と照応しているのと同じである。「鳥獣戯画」には、詞書が付随せず、そもそも言語とは切り離されていることも想起されるべきであろう。

言語が支えている統一的で合理的なものに抵抗する形象——それはノーマン・ブライソンが言う形象的な絵画と言っても良い——として「鳥獣戯画」を理解すべきなのではないかというのが、筆者の提案である。動物が主役とされているのも、言語の外部という領域を可視化するためとみることも出来よう。あるいは「謎」を組み込むことで、人知を超えた不可解な領域——動物が象徴する自然——の存在を示唆しようとしていると考えることもできるのではないだろうか。

以上の見方は、この作品の主題を言語により実体論的に探究するのではなく、関係論的な視点へシフトして考えるということでもある。(従って、拙著を訓詁注釈の説がまた一つ増えたかのように評されるのはやや不本意である。)'鳥獣戯画'は、言語の内と外、中心と周縁の関係を、擬人化された動物の姿を借りて描いているとみることも出来るからである。言語と絵画、中心と周縁、人間と動物という関係性のもとに考えると、絵巻における「鳥獣戯画」の位置は、院政における院の位置や、文芸における連歌の位置とも一致するのではないかというのが筆者の見立てであるが、具体的な内容については、直接書籍に、または書評サイト All Reviews 掲載の概要を当たって頂ければ幸いである。

李 澤熊『日本語の意味研究の新たな扉を開く——意味分析の方法と実際』開拓社

本書は、現代日本語の様々な類義語と多義語について、「意味の伝達」ということばの最も重要な働きに注目し、従来の優れた意味分析の手法に加え、言語は認知主体である人間の認知能力を反映したものであると考える認知言語学の観点から、考察・記述したものである。

本書は、大きく「意味分析の方法—理論的背景—（第2章）」「類義語分析（第3章～第9章）」「多義語分析（第10章～第13章）」「日韓対照言語学的観点からの分析（第14章～第16章）」という4つのパートから構成されている。以下、簡略に概要を述べる。

第2章では、本書の基盤となる理論的背景について概観した。まず、意味分析の方法について、注目すべき記述がなされている先行研究を取り上げ、本書の立場を確認した。また、類義語と多義語の基本的な性質、定義づけなどについて諸研究を踏まえて概観し、さらに本書で援用する理論と概念について、先行研究を踏まえて解説した。

第3章では、「うっかり（と）、うかうか（と）、うかつに、うかつにも」の4語を取り上げ、従来の優れた意味分析の手法を用いて、相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。第4章では、「どことなく、何となく、それとなく」の3語について、類義語分析を行った。第5章では、「いつしか、知らず知らず、いつの間にか」の3語を取り上げ、「ベース（base）」と「プロフィール（profile）」の概念を援用し、相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。第6章では、「たちまち、あっという間に、またたく間に」の3語について、「ベース」と「プロフィール」の概念を用いて、類義語分析を行った。第7章では、「皆（みな・みんな）、すべて、全部」の3語を取り上げ、「統合的スキーマ」と「離散的スキーマ」という概念を援用し、相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。第8章では、いわゆる「重複」の意味を表す「重なる、ダブる、かぶる」を取り上げて、「二次的活性化（secondary activation）」という概念を用いて、類義語分析を行った。第9章では、いわゆる「決定」の意味を表す多義動詞「決める」と「定める」を取り上げ、「フレーム（frame）」の概念を援用して、それぞれの意味の類似点・相違点を明らかにした。

第10章では、形容詞「正しい」の意味を明確に記述するとともに、多義的別義の認定に関する先行研究を整理・検討し、「正しい」が単義語か多義語かを明らかにした。なお、本書では「正しい」について多義語とする立場をとるものの、典型例とは言えず、単義語と多義語の境界上に位置している語であると主張した。第11章と第12章では、多義動詞「かえす」と「のびる」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにした。具体的には、多義語の分析において明らかにしなければならないこと、すなわち、靫山（2001など）が多義語分析の課題として提案している4つの課題に基づき、分析を行った。第13章では、疑問詞「どこ」と「どこ」を含む複合表現について、いわゆる「分析可能性（analyzability）」の観点から、それぞれの意味を明確に記述した。

第14章では、日韓両言語における多義語の多義構造が対応する例と対応しない例を取り上げ、百科事典的意味観に基づき、分析を行った。第15章では、日本語の「腐る、腐敗する」と韓国語の「썩다（sseogda）、부패하다（bupachada）」を取り上げ、百科事典的意味観に基づき、両言語における多義語の対応関係を明らかにした。第16章では、類義関係にある韓国語の副詞的成分이따가（ittaga）と나중에（najunge）について、日本語の「あとで」／「のちほど」との対応関係を指摘しながら、相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。

山本直人『縄文時代地域社会の実態』同成社

本書は北陸における縄文時代早期末～弥生時代前期末の地域社会を解明することを目的としたものである。地域社会の変遷と画期の要因を明らかにすることによって縄文時代の地域史を復元し、縄文時代の新しい歴史像を再構成するための一助とすることを目指したものである。

序章の「本書の目的と方法」では、前記の目的を明示した。また、研究方法では遺跡や遺物が内包する情報を抽出し、それらを解釈するために幅広い方法を採用した。考古学に固有の方法ばかりでなく、文理融合の方法や民族考古学的方法も採用した。

第1章「自然科学的分析による根茎類食料化の検証」では、土器内面の焦げや植物食加工用石器の残存デンプン粒分析を行ってカタクリ属やユリ属のデンプンを検出し、根茎類が食料化されていたことを裏付けた。また、デンプンが作用して形成される土器内面の焦げを試料に炭素・窒素安定同位体比分析を行い、根茎類のデンプンが使用されている可能性を指摘した。

第2章「炭素14年代測定法による校正年代の付与」では、炭素14年代を西暦に校正した年代を各土器型式に付加することにより、土器型式編年において各土器型式の時間軸上での位置と時間幅が不明であるという課題を克服した。それを活用し、低湿地遺跡から出土した植物質遺物の校正年代を決定し、所属する土器型式を特定した。

第3章「能登半島七尾湾岸における縄文早期～晩期の地域社会」では、三引遺跡の変遷過程を3期に区分した。後氷期の温暖化に伴う海面上昇が一旦落ち着いた5550 cal BCから650年間にわたって集落が形成され、4900 cal BCから海面が再上昇したことによって集落が放棄され、3950 cal BCから生業活動の場として利用されるものの、頻発した土石流が原因で居住できる環境ではなかったと推測した。

第4章では、「手取川扇状地における縄文後晩期の地域社会」が「長期間にわたって持続した環境非破壊型資源利用のサステナブル・コミュニティである」という作業仮説をたて、それを立証した。それが成立するための条件は食料、飲料水、燃料を自給自足できることであるとした。

第5章「地域社会間の交流と格差」では、2006年から10年間にわたって実施してきた北米北西海岸先史時代に関する民族考古学的調査の報告を行った。部族間の交流を深める祭典、その祭典での財の贈答を伴う外交儀礼、カジノを営める部族と営めない部族では経済格差があることなど民族調査でえた知見を参考に、地域社会間の格差や交流に関する解釈を提示した。

第6章「海進・海退と地形環境の変化」では、安定していた海面が4900 cal BCから再び上昇し始め、4700～4600 cal BCに縄文海進の最盛期をむかえ、海面は標高2～3 mに達したと推測した。金沢大学名誉教授の藤則雄氏が提唱している縄文時代後期～古墳時代初頭の北陸海退説を検証し、成立することを論述した。

終章「北陸における縄文早期末～弥生前期の地域社会」では、地域社会を大小に分け、一定の地理的範囲にある遺跡群の小地域社会を生活共同体、それらの集合の大地域社会を部族とし、両者を合わせた地域社会の変遷過程を5期に大別した。第1期：早期末～前期初頭（5550～4900 cal BC）、第2期：前期前葉（4900～4400 cal BC）、第3期：前期中葉～後期初頭（4400～2300 cal BC）、第4期：後期前葉（2300～1950 cal BC）、第5期：後期中葉～弥生前期末（1950～380 cal BC）で、第2期は非居住期間、第4期は遺跡数が激減した期間である。居住期間である第1・3・5期の成立要因として海水準の安定によって生活できる自然環境が整ったこと、人口減少に伴う氏族の半族への編成を推測し、終焉の要因として気候変動による居住環境の悪化、水稻農耕の受け入れを巡る地域社会内の葛藤を推測した。

Ⅲ 各種データ

1. 教育の現況

1-1 教育プログラムの構成

資料1-1-1（旧資料1） 人文学研究科の学位プログラム・コースと分野・専門（2017年度以降）

学位プログラム	コース	分野・専門
言語文化系	文芸言語学	言語学、日本語学、日本文学、英語学、英米文学、ドイツ語ドイツ文学、フランス語フランス文学、中国語中国文学、日本語教育学、英語教育学、応用日本語学
	哲学倫理学	哲学、西洋古典学、中国哲学、インド哲学
歴史文化系	歴史学・人類学	日本史学、東洋史学、西洋史学、美学美術史学、考古学、文化人類学
	総合文化学	映像学、日本文化学、文化動態学、ジェンダー学
英語高度専門職業人	英語高度専門職業人	
多文化共生系	国際・地域共生促進	

資料1-1-2（旧資料2） 文学部のコースと分野・専門（2017年度以降）

コース	分野・専門
文芸言語学	言語学、日本語学、日本文学、英語学、英米文学、ドイツ語ドイツ文学、フランス語フランス文学、中国語中国文学
哲学倫理学	哲学、西洋古典学、中国哲学、インド哲学
歴史学・人類学	日本史学、東洋史学、西洋史学、美学美術史学、考古学、文化人類学
環境行動学	社会学、心理学、地理学
G30国際	アジアの中の日本文化

1-2 教員数・学生数

資料1-2-1（旧資料3） 人文学研究科教員の年齢別、男女別構成（2020年度、5月1日現在）

		教授	准教授	講師	助教	計
性別	男性	32	28	0	4	64
	女性	9	26	3	2	40
年齢	～34歳	0	0	0	2	2
	35～44歳	0	17	2	1	20
	45～54歳	15	26	1	0	42
	55～64歳	24	11	0	3	38
	65歳～	2	0	0	0	2
	計	41	54	3	6	104

出典：文系総務課記録

資料1-2-2（旧資料4） 人文学研究科の学生定員と現員（入学者数推移）（各年度、5月1日現在）

	前期1年		前期2年		計		後期1年		後期2年		後期3年		計	
	定員	在籍者数	定員	在籍者数	定員	在籍者数	定員	在籍者数	定員	在籍者数	定員	在籍者数	定員	在籍者数
2017年度	104	108	—	—	104	108	61	53	—	—	—	—	61	53
2018年度	104	113	104	105	208	218	61	49	61	53	—	—	122	102
2019年度	104	115	104	123	208	238	61	39	61	50	61	51	183	140
2020年度	104	116	104	129	208	245	61	35	61	37	61	89	183	161

出典：文系教務課記録

資料1-2-3（旧資料5） 文学部の学生定員と現員（入学者数推移）（各年度、5月1日現在）

	1年		2年		3年		4年		計	
	定員	在籍者数	定員	在籍者数	定員	在籍者数	定員	在籍者数	定員	在籍者数
2016年度	125	131	125	142	135	144	135	184	520	601
2017年度	125	133	125	141	135	144	135	172	520	590
2018年度	125	134	125	142	135	141	135	171	520	588
2019年度	125	131	125	139	135	149	135	160	520	579
2020年度	125	131	125	142	135	132	135	171	520	576

出典：文系教務課記録・NIAD

資料1-2-4（旧資料6） 社会人学生受入状況（大学院）

	博士課程（前期課程）			博士課程（後期課程）		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
2017年度	14	3	3	20	14	13
2018年度	17	6	6	21	10	9
2019年度	26	13	12	13	7	7
2020年度	33	13	13	8	4	4

出典：文系教務課記録

資料1-2-5（旧資料7） 留学生受入状況（大学院）

5月1日現員	前期課程1年			前期課程2年			合 計		
	私費	国費	計	私費	国費	計	私費	国費	計
2017年度	63	2	65	—	—	—	63	2	65
2018年度	63	7	70	61	2	63	124	9	133
2019年度	71	4	75	71	7	78	142	11	153
2020年度	65	9	74	78	4	82	143	13	156

5月1日現員	後期課程1年			後期課程2年			後期課程3年			合 計		
	私費	国費	計	私費	国費	計	私費	国費	計	私費	国費	計
2017年度	15	3	18	—	—	—	—	—	—	15	3	18
2018年度	14	5	17	14	4	18	—	—	—	28	9	35
2019年度	11	3	14	14	6	20	12	4	16	37	13	50
2020年度	20	2	22	10	3	13	29	5	34	59	10	69

5月1日現員	学部研究生			大学院研究生			大学院特別研究学生		
	私費	国費	計	私費	国費	計	私費	国費	計
2017年度	22	5	27	1	3	4	3	0	3
2018年度	35	3	38	2	3	5	5	0	5
2019年度	26	7	33	1	4	5	7	0	7
2020年度	17	4	21	4	0	4	5	0	5

出典：文系教務課記録

資料1-2-6（旧資料8） G30国際プログラム学生受入状況（大学院）

	「アジアの中の日本文化」			言語学・文化研究		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
2017年度	26	2	2	45	6	6
2018年度	36	5	5	32	8	7
2019年度	24	6	6	38	9	9
2020年度	31	5	4	41	6	5

出典：文系教務課記録

資料1-2-7（旧資料9） G30「アジアの中の日本文化」プログラム学生受入状況（学部）

	出願者数	合格者数	入学者数	入学定員
2016年度	47	5	4	若干名
2017年度	33	7	5	若干名
2018年度	40	6	3	若干名
2019年度	53	8	4	若干名
2020年度	30	8	7	若干名

出典：文系教務課記録

資料1-2-8（旧資料10） 3年次編入学生受入状況（学部）

経歴	入学者数							入学定員
	4年生大学卒業	短期大学卒業	高等専門学校卒業	専修学校卒業	外国大学卒業	大学在学(退学)	計	
2016年度	4	2	0	1	0	4	11	10
2017年度	4	1	0	0	0	5	10	10
2018年度	1	1	0	1	0	7	10	10
2019年度	1	1	2	0	0	8	12	10
2020年度	0	1	1	0	0	0	2	10

出典：文系教務課記録・NIAD

資料1-2-9（旧資料11） 科目等履修生、聴講生、研究生等受入状況（大学院）

5月1日現員	科目等履修生	特別研究学生	研究生	特別聴講学生
2017年度	2	—	5 (4)	6 (6)
2018年度	8	5 (5)	6 (5)	5 (5)
2019年度	4	7 (7)	5 (5)	9 (9)
2020年度	13	5 (5)	4 (4)	1 (1)

11月1日現員	科目等履修生	特別研究学生	研究生	特別聴講学生
2017年度	6	—	9 (8)	11 (11)
2018年度	8	6	7 (7)	10 (10)
2019年度	6	6 (6)	5 (5)	7 (7)
2020年度	12	—	4 (3)	—

注：研究生の括弧内は留学生で内数、特別聴講学生は短期交換留学生。

出典：文系教務課記録

資料1-2-10（旧資料12） 科目等履修生、聴講生、研究生受入状況（学部）

5月1日現員	科目等履修生	聴講生	研究生	特別聴講学生
2016年度	7	6	10 (10)	27 (27)
2017年度	9	5	27 (27)	40 (39)
2018年度	7	6	40 (40)	26 (26)
2019年度	7	8	33 (33)	15 (15)
2020年度	4	3	21 (21)	13 (13)

11月1日現員	科目等履修生	聴講生	研究生	特別聴講学生
2016年度	10	6	32 (32)	31 (31)
2017年度	8	5	77 (76)	41 (41)
2018年度	7	9	75 (75)	15 (15)
2019年度	6	10	71 (70)	19 (19)
2020年度	5	2	59 (58)	—

注：研究生の括弧内は留学生で内数、特別聴講学生は短期交換留学生。

出典：文系教務課記録

1-3 国際化

資料1-3-1（旧資料13） 文学部・人文学研究科が窓口となる大学間協定（2020年度末現在）

吉林大学（1985.5.23-）	ハーバード・イェンチン研究所（1986.3.11-）	本浦大学校（1999.5.11-）
ブラジリア連邦大学（1999.11.11-）	スラバヤ国立大学（2000.8.1-）	
梨花女子大学校（2002.5.24-）		

出典：文系総務課記録

資料1-3-2（旧資料14） 文学部・人文学研究科 部局間学術交流協定（2020年度末現在）

バジャジャラン大学文学部（2001.1.8-）
北京第二外国語学院（2003.3.18-）
韓国外国語大学一般大学院・国際地域大学院（2007.3.1-）
東呉大学外国語文学院（2009.8.6-）
東華大学外語学院（2014.11.28-）
上海外国語大学日本文化経済学院及び国際文化交流学院（2015.7.16-）
西安外国語大学日本文化経済学院（2016.3.10-）
中国人民大学外国語学院（2016.11.4-）
天主教輔仁大学外語学院（2018.8.22-）
ウォリック大学映画テレビ研究学科（コチュテル・プログラム）（2019.5.22-）
フランス国立東洋言語文化大学（INALCO）（2020.7.20-2025.7.19）

出典：文系総務課記録

1-4 FD

資料1-4-1（旧資料15） ファカルティ・ディベロップメント（FD）開催実績一覧（2020年度）

取組	主催	実施内容・方法	参加者数
FD 講演会	学生支援センター	ゲストスピーカーの公演・意見交換	99
FD 説明会	研究企画課	動画視聴	97
FD 説明会	人文学研究科	新カリキュラム検討の現状について	94

1-5 大学院生・若手研究者等の支援

資料1-5-1（旧資料16） 大学院生支援事業実施状況（2020年度）

事業名	前期課程 （件数）		後期課程 （件数）			計	助成決定額 （千円）
	国内	国外	国内	国外	オンライン		
研究発表支援事業			0	0	2	2	30
フィールド調査プロジェクト	2	4	1	3		10	1157
計	2	4	1	3	2	12	1187

出典：人文学研究科教育研究推進室資料

資料1-5-2（旧資料17） TA、RA 採用実績一覧

	TA	全学 TA	RA
2017年度	100	52	12
2018年度	98	49	12
2019年度	100	63	11
2020年度	99	58	11

出典：文系総務課記録

資料1-5-3（旧資料18） 各種研究員等受入状況

	博士研究員	博士候補 研究員	CHT 共同研究員	TCS (JACRC 含む) 共同研究員	YLC 助教	客員研究員
2017年度	17	25	5	0	3	9
2018年度	16	20	8	0	5	18
2019年度	16	23	10	1	5	17
2020年度	17	21	8	0	0	6

注：CHT＝人類文化遺産テキスト学研究センター

TCS＝超域文化社会センター（2018年度～）

JACRC＝「アジアの中の日本文化」研究センター（～2017年度）

出典：文系総務課記録

資料1-5-4（旧資料19） 学術振興会特別研究員

	DC1	DC2	PD	RPD	計
2017年度	8	6	4	0	18
2018年度	5	3	4	0	12
2019年度	3	6	4	0	13
2020年度	0	10	0	0	10

出典：文系総務課記録

1-6 教育の成果

資料1-6-1（旧資料20） 教育環境の満足度調査（2020年度）

・教育環境の満足度調査の項目 1. 教室や図書室などの施設設備の満足度を教えてください。 2. シラバスや受講している授業の内容についての満足度を教えてください。 3. 所属する分野・専門の教員からの研究指導などについての満足度を教えてください。 4. 全般的にみた、本学部・研究科の教育および学習環境についての満足度を教えてください。 ・教育環境の満足度調査の結果（％）							
設問	とても満足	満 足	やや満足	普 通	やや不満	不 満	とても不満
1.	10.9	30.4	27.5	21.7	7.2	1.4	0.7
2.	21.7	46.4	11.6	15.2	4.3	0.7	0.0
3.	33.3	37.7	6.5	10.9	8.7	2.2	0.7
4.	15.9	31.2	22.5	18.1	10.1	1.4	0.7

出典：文系教務課記録

資料1-6-2（旧資料21） 大学院生の研究業績件数

	論文発表数		学会発表数		受賞数	研究助成
	査読有	査読無	国際	国内		
2017年度	7		52		0	
2018年度	46		144		1	
2019年度	74	27	43	83	1*	4**
2020年度	76	22	39	72	4***	1****

*D2 日本語／日本語教育研究会第11回研究大会ポスター賞

**D3 公益財団法人松下幸之助記念志財団研究助成

**D2 ロータリー米山記念奨学金

**D2 東海ジェンダー研究所研究助成

**D1 公益財団法人松下幸之助記念志財団研究助成

***D3 朝鮮大学人文学研究院・518記念財団優秀論文賞

***D3 日本英語学会大会優秀発表賞

***D3 2020年日語教育と日本学研究国際会議研究生学術論壇優秀論文評選

***D1 第16回日本近世文学学会賞

**** 満退 公益財団法人鍋島効公会研究助成

資料1-6-3（旧資料22） オープンキャンパスにおけるポスター発表・学生体験談動画件数

2017年度	12
2018年度	11
2019年度	12
2020年度	9

注：2019年度まではポスター発表、2020年度からは学生体験談動画

出典：広報体制委員会記録

資料1-6-4（旧資料23）『名古屋大学人文学フォーラム』論文数

2017年度第1号	20
2018年度第2号	23
2019年度第3号	33
2020年度第4号	33

出典：『名古屋大学人文学フォーラム』各号

1-7 進路

資1-7-1（旧資料24） 就職活動セミナー開催実績一覧（2020年度）

開催日	名 称	講 師
2020年11月25日	文学部・人文学研究科 就職セミナー 2020	大上学（株式会社マイナビ） 船津静代（学生相談センター 就職キャリア相談部門）
2020年11月25日	家庭裁判所調査官業務説明会	名古屋家庭裁判所職員

出典：進路・就職対策委員会資料

資料1-7-2（旧資料25） 進路状況（2020年度、学部）

就職	民間企業	建設業	1
		製造業	13
		電気・ガス熱供給・水道業	3
		情報通信業	20
		運輸業	6
		卸売・小売業	14
		金融・保険業	5
		不動産業	0
		学術研究・専門・技術サービス	4
		宿泊業・飲食サービス業	0
		生活関連サービス業・娯楽業	1
		教育・学習支援業	6
		医療・福祉	1
		複合サービス業	0
		サービス業	5
	小 計		79
	官公庁		21
	教 員		4
	その他		0
合 計			104
大学院進学		21	
その他		14	
総 計		139	

出典：文系教務課記録

1-8 高大連携

資料1-8-1（旧資料26） 教員による高校訪問、高校による大学訪問、出張講義等実施実績一覧

2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
6月 6日	浜松市立 浜松高校	5月 24日	愛知県立 安城南高校	5月 24日	岐阜県立 斐太高校	5月 15日	私立 麗澤瑞浪高校	10月 1日	私立 愛知淑徳高校
7月 1日	私立高田高校	5月 25日	岐阜県立 斐太高校	5月 30日	私立 麗澤瑞浪高校	5月 23日	岐阜県立 斐太高校	11月 9日	愛知県立 江南高校
7月 11日	愛知県立 明和高校	6月 5日	浜松市立 浜松高校	6月 4日	浜松市立 浜松高校	6月 10日	浜松市立 浜松高校	11月 12日	名古屋市立 菊里高校
7月 12日	岐阜県立 多治見北高校	6月 7日	岐阜県私立高校 保護者会	6月 7日	私立 愛知淑徳高校	7月 9日	愛知県立 明和高校	12月 21日	愛知県立 明和高校
7月 13日	静岡県立 掛川西高校	6月 15日	私立高田高校	6月 27日	愛知県立 常滑高校	7月 27日	私立聖隷クリス トファー高校	3月 12日	福井県立 藤島高校
9月 2日	三重県立 津西高校	6月 21日	私立 麗澤瑞浪高校	6月 29日	愛知県立 大府東高校	8月 6日	愛知県立 知立東高校		
10月 14日	愛知県立 時習館高校	6月 29日	静岡県立 掛川西高校	7月 6日	私立愛知高校	9月 3日	愛知県立 荻谷北高校		
10月 17日	愛知県立 江南高校	7月 10日	愛知県立 横須賀高校	7月 9日	愛知県立 明和高校	9月 17日	岐阜県立 多治見北高校		
10月 17日	愛知県立 岡崎北高校	7月 10日	愛知県立 明和高校	7月 10日	愛知県立 知立東高校	9月 20日	岐阜県立 岐阜北高校		
10月 25日	愛知県立 豊橋東高校	7月 11日	岐阜県立 多治見北高校	7月 19日	私立名古屋高校	9月 27日	愛知県立 松蔭高校		
10月 26日	愛知県立 豊田北高校	7月 12日	愛知県立 知立東高校	7月 31日	名古屋市立 名古屋西高校	10月 16日	愛知県立 半田高校		
11月 2日	愛知県立 豊田西高校	8月 11日	愛知県立 明和高校	9月 27日	愛知県立 松蔭高校	10月 18日	私立愛知高校		
12月 6日	岐阜県立 多治見北高校	9月 11日	岐阜県立 岐阜北高校	10月 12日	愛知県立 時習館高校	10月 21日	愛知県立 岡崎北高校		
12月 12日	愛知県立 西尾高校	9月 13日	愛知県立 松蔭高校	10月 15日	愛知県立 江南高校	10月 28日	愛知県立 江南高校		
		9月 30日	三重県立 四日市高校	10月 22日	愛知県立 岡崎北高校	10月 29日	私立南山高校・ 中学男子部		
		10月 3日	私立南山高校・ 中学男子部	10月 23日	私立南山高校・ 中学男子部	10月 31日	愛知県立 西尾高校		
		10月 5日	名古屋大学教育 学部附属高校	10月 24日	愛知県立 豊田北高校	11月 7日	愛知県立 豊田西高校		
		10月 16日	愛知県立 江南高校	11月 1日	名古屋市立 菊里高校	11月 12日	岐阜県立 多治見北高校		
		10月 16日	愛知県立 岡崎北高校	11月 8日	愛知県立 豊田西高校	11月 13日	愛知県立 豊田北高校		
		10月 19日	愛知県立 半田高校	11月 9日	愛知県立 半田高校	11月 22日	愛知県立 半田東高校		
		10月 23日	愛知県立 大府東高校	11月 15日	愛知県立 西尾高校	1月 21日	名古屋市立 菊里高校		
		10月 25日	愛知県立 豊田北高校	12月 6日	名古屋市立 名古屋西高校				
		11月 2日	愛知県立 豊田西高校	1月 11日	私立土佐塾 中学・高校				

2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
		11月 9日	名古屋市立 菊里高校	3月 12日	福井県立 藤島高校				
		11月 10日	愛知県立 半田高校						
		11月 15日	愛知県立 西尾高校						
		3月 13日	福井県立 藤島高校						

出典：文系教務課記録・広報体制委員会議事録

2. 研究の現況

2-1 研究の成果

資料2-1-1（旧資料27） 教員の研究活動状況

	著書数		招待論文数		査読付き論文数		その他
	日本語	外国語	日本語	外国語	日本語	外国語	
2016年度	31 (6)	8 (1)	16	5	29	26	221
2017年度	39 (7)	5 (2)	31	1	33	16	226
2018年度	23 (7)	9 (0)	33	9	14	32	302
2019年度	28 (6)	12 (3)	36	14	29	21	275
2020年度	40 (8)	13 (0)	33	3	19	29	203

注：著書数については、内数（カッコ内）として「単著」の数を記載。

学会発表や「査読付き論文」に当たらない論文などについては、「その他」としてカウント。

「招待」かつ「査読付き」の場合は、「招待」でカウント。

資料2-1-2（旧資料28） 国際／国内研究集会開催件数

	国際研究集会	国内研究集会
2017年度	14	13
2018年度	19	17
2019年度	16	16
2020年度	12	29

資料2-1-3（旧資料29） 共同研究実施件数

経 費	授業料	科学研究費 補助金	名古屋大学 全学諸経費	文学研究科 プロジェクト経費	その他
2017年度	3	30	0	2	20
2018年度	2	39	0	4	31
2019年度	6	57	10	6	46
2020年度	2	37	0	1	17

資料2-1-4（旧資料30） 海外における調査・フィールドワーク件数

実施国	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	実施国	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
アメリカ	1	6	3	1	スペイン		1	1	1
イギリス	1	1	5	4	タイ		1		
イタリア	1	1	1		台湾	2	5	4	
インド	1				タジキスタン	1			
インドネシア	1	1			中国	3	7	5	
ウズベキスタン	1				ドイツ		2	2	
エジプト	1	1	1		トルコ			1	
エチオピア				1	ニカラグア		1		
エルサルバドル	1	2	2		ノルウェー			1	
オーストリア		1			フィリピン	1	1	1	
カメルーン				3	フランス	2	2	6	2
韓国		4	2		ホンジュラス		1		
ギリシャ	2		1		メキシコ	1		1	
キルギス			1		ラオス	1		1	
グアテマラ	1	1	1		リトアニア	1			
クロアチア	1				ロシア	1	1	1	
スイス		1			不明				1

注：2020年度はすべてオンラインによる調査

資料2-1-5（旧資料31） 研究会実施回数

学会・研究会の名称	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
奥田靖雄翻訳プロジェクト研究会	10	8	1	6
中国ジェンダー研究会	3			
フーコー研究：人文科学の再批判と新展開	5	10	6	
イマージュ論研究会	1		3	
名古屋大学会話分析データセッション	11	9	12	5
日本アメリカ史学会第14回年次大会（実行委員長）	1			
名古屋大学英語学談話会	10	10	10	
「身体と記憶の共鳴」研究会 （2019年度より「予測を生み出す推論装置」研究会へ名称変更）	2	3		1
The S.E.P.C (The Seminar on English Poetry and Criticism)	1			
名古屋平安文学研究会	2	2	2	1
リーディング・語彙研究会	12	12		12
日本語教育研究集会	1	1	1	
「日本言語文化研究」学術研究会	1	1		1
上海師範大学・名古屋大学言語文化学術交流会	1	1		1
フローベール研究会	1			
名古屋音声研究会	13	13	10	3
ブルースト研究報告会	2			
名古屋言語研究会	11	11	5	5
名古屋大学国語国文学会	2	2	2	1
Nagoya Iconicity in Language and Literature Society (NILLS)	10	10	1	
相互行為のポインティング研究会	2			
名古屋大学アメリカ文学・文化研究会	1	1	1	1

学会・研究会の名称	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
「地域と宗教」研究会		3		
フェミニズム・ジェンダー読書会		6	7	3
1930年前後左翼運動の文化実践におけるジェンダーとセクシュアリティ		2	3	1
1930年代における東アジア女性雑誌の比較研究		1	3	2
古代アメリカ学会西日本部会		2		
考古学研究会東海例会		1		
ドイツ社会国家研究会		4		
テキストの中の文法研究会		2		
アコリス考古学プロジェクト		1		1
賢愚経研究会		9	6	
スイス科研研究会（2020年度より「アルプス科研研究会」へ名称変更）		5		1
先導的人文学研究		6	3	
言語の類型的特点をとらえるための対照研究会		3		
歴史教育研究会		1	1	
東海縄文研究会		1		
東アジアと同時代日本語文学フォーラム		1	1	1
古書の会			11	
象徴天皇制研究会			4	3
名古屋大学西洋古典研究会			1	
仏教教学研究会			5	
日中文献交流史研究会			6	
比較人文学研究会			15	
中世史研究会			10	10
中国語文献を読む会 in 名古屋			1	2
中国社会研究会			6	8
日本フランス語フランス文学会中部支部大会			1	1
ボルヘス原書読書会			30	
「訳官使・通信使とその周辺」研究会			3	
六度集経研究会			3	
「言説と情動」研究会			5	
「予測を生み出す推論」研究会			3	
名古屋大学東洋史研究会大会			1	
「地域と宗教」研究会			2	
名古屋哲学フォーラム			1	
中部人類学談話会			5	
電算文学研究会				1
オンライン映画上映と監督との対話シリーズ				4
Global Hardy 大会				1
日本ハーディ協会第63回大会				1
ダンス・スコア特別講座シンポジウム				1
国際シンポジウム「多様な観点からの日本映画」				1
ベルギー・ナミュール大学教授 Jean-François Nieuw 講演会				1
西洋古代史インターユニ				1
エジプト領域部研究の新展開				1
日本オリエント学会第62回大会				1

学会・研究会の名称	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
日本ナイル・エチオピア学会第29回学術大会				1
日本言語学会161回大会				1
考古遺物から見た仏教文化の伝播と交流：古代日本と中央アジア				1
超域文化社会センター 国際シンポジウム				1
「古代地中海世界における知の動態と文化的記憶」研究会				2
グローバル化時代における「観光化／脱-観光化」のダイナミズムに関する研究会				2
International Workshop on Mimetics IV				1
「コンピュータを使った近現代文学研究」勉強会				3
フランス・アカデミーの総合的研究				3
上海財形大学・名古屋大学共同研究会				1
Zora Neale Hurston, “The Swear”				1

出典：人文学研究科教育研究推進室資料

2-2 研究資金の状況

資料2-2-1（旧資料32） 科学研究費等受入状況

		新規採択	継続採択	合 計
2017年度	件 数	14件 (うち基盤S：0件 基盤A：0件)	70件 (うち基盤S：1件 基盤A：1件)	84件 (うち基盤S：1件 基盤A：1件)
	受入金額	直接経費	18,500,000円	114,923,156円
		間接経費	6,060,000円	28,950,000円
		合 計	24,560,000円	143,873,156円
2018年度	件 数	18件 (うち基盤S：0件 基盤A：2件)	55件 (うち基盤S：1件 基盤A：0件)	73件 (うち基盤S：1件 基盤A：2件)
	受入金額	直接経費	31,300,000円	80,600,000円
		間接経費	9,390,000円	24,180,000円
		合 計	40,690,000円	104,780,000円
2019年度	件 数	23件 (うち基盤S：0件 基盤A：0件)	48件 (うち基盤S：0件 基盤A：2件)	71件 (うち基盤S：0件 基盤A：2件)
	受入金額	直接経費	37,500,000円	53,800,000円
		間接経費	11,250,000円	16,140,000円
		合 計	48,750,000円	69,940,000円
2020年度	件 数	18件 (うち基盤S：0件 基盤A：1件)	57件 (うち基盤S：0件 基盤A：2件)	75件 (うち基盤S：0件 基盤A：3件)
	受入金額	直接経費	28,200,000円	67,831,555円
		間接経費	8,460,000円	19,296,000円
		合 計	36,660,000円	87,127,555円

出典：研究事業課記録

資料2-2-2（旧資料33） 寄付金等受入状況（2020年度）

種 別	課題名	出 所	代表者	受入金額
寄付金		公益財団法人りそな・アジア・オセアニア財団	村田 光司	800,000円
寄付金		公益財団法人 村田学術振興財団	河西 秀哉	1,000,000円
寄付金		公益財団法人大幸財団	鳥山 定嗣	1,300,000円
寄付金		公益財団法人 DNP 文化振興財団	小川 翔太	500,000円
寄付金		公益財団法人ヒロセ財団	鶴巻 泉子	690,000円
寄付金		一般財団法人東海冠婚葬祭産業振興センター	河西 秀哉	500,000円
共同研究		学校法人椋山女学園	梶原 義実	0円
受託事業	研究拠点形成事業（A. 先端拠点形成型）	独立行政法人日本学術振興会	阿部 泰郎	14,256,000円
受託事業	二国間交流事業共同研究・セミナー	独立行政法人日本学術振興会	加藤 久美子	2,245,800円
補助金	研究大学強化促進事業 (最先端国際研究ユニット 代表研究者)	文部科学省（学内配分）	近本 謙介	2,050,000円
補助金	研究大学強化促進事業 (最先端国際研究ユニット 構成研究者)	文部科学省（学内配分）	梶原 義実	250,000円
補助金	研究大学強化促進事業 (最先端国際研究ユニット 構成研究者)	文部科学省（学内配分）	程 永超	250,000円
補助金	研究大学強化促進事業 (最先端国際研究ユニット 構成研究者)	文部科学省（学内配分）	影山 悦子	363,810円

出典：研究事業課記録

資料2-2-3（旧資料35） 人文学研究科教育実施経費配分状況（2020年度）

プロジェクト名	代表者	配分額
日本史博物館実習Ⅰ	日本史学	29,000 円
文化資源学研究Ⅰ	基礎基盤科目	25,000 円
文化資源学研究Ⅲ	基礎基盤科目	98,000 円
美術史実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb	美学美術史学	98,400 円
考古博物館実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb	考古学	292,000 円
宗教人類学基礎演習 a 文化人類学フィールド実習Ⅰa	文化人類学	426,780 円
宗教人類学基礎演習 b 文化人類学フィールド実習Ⅰb	文化人類学	529,092 円
文化人類学フィールド入門実習Ⅰ	文化人類学	155,600 円
日本文化フィールドワーク実習 a	文化人類学	126,480 円
アーカイヴス・テキスト学フィールドワーク実習 日本文化フィールドワーク実習 b	文化人類学	114,180 円

出典：文系総務課記録

資料2-2-4（旧資料36） 人文学研究科プロジェクト経費配分状況（2020年度）

プロジェクト名	代表者	配分額
アジア宗教文化遺産研究プロジェクト——科研費・学術変革領域研究（A）獲得・遂行に向けて	近本 謙介	495,200 円
名古屋大学—屏東大学・文学交流暨論文発表会の開催	杉村 泰	48,000 円
ウィズ（with）・コロナ時代の人文学研究・言語研究の公開（オンライン）講義プロジェクト	堀江 薫	200,000 円
日中学術交流推進プロジェクト	鷺見 幸美	400,000 円

出典：文系総務課記録

2-3 研究成果の社会還元

資料2-3-1（旧資料37） 社会還元活動実施状況

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
市民向け講演・公開シンポジウム、カルチャースクール等	78	73	90	57
新聞記事の掲載・テレビ出演等	21	41	104	48
高等学校への出張授業等	27	24	21	5
その他	4	15	18	20

資料2-3-2（旧資料38） 地域連携活動一覧

	種 別	内 容	成果物
2017年度	自治体史等	愛知県史、新修豊田市史、西尾市史、小松市史	『愛知県史』通史編2中世1、『愛知県史』通史編3中世2・織豊
	文化財調査事業等	文化庁、愛知県、名古屋市（2件）、豊田市、一宮市、稲沢市、刈谷市、東栄町	
	博物館美術館等	東京国立博物館、国立歴史民俗博物館、国立西洋美術館、名古屋市博物館、岡崎市美術館博物館、稲沢市荻須記念美術館、西尾市岩瀬文庫	展示図録『こんな本があった！—岩瀬文庫平成悉皆調査中間報告展15—』／西尾市岩瀬文庫
2018年度	自治体史等	愛知県史、鳥取県史、豊田市史、知立市史、西尾市史、小松市史	『愛知県史』通史編5近世1、鳥取県史ブックレット
	文化財調査事業等	奈良文化財研究所、名古屋市、豊田市（2件）、稲沢市、刈谷市	
	博物館美術館等	国立歴史民俗博物館、三重県立美術館、名古屋市博物館、岡崎市、稲沢市美術館	
2019年度	自治体史等	愛知県史、鳥取県史、豊田市史、知立市史、西尾市史、小松市史、鳥取市史	
	文化財調査事業等	愛知県、名古屋市、稲沢市、刈谷市、豊川市、大垣市、設楽町、東栄町、豊根村	
	博物館美術館等	東京国立博物館、国立歴史民俗博物館、三重県立美術館、名古屋市博物館（2件）、岡崎市美術館博物館、稲沢市荻須記念美術館、一宮市博物館、西尾市岩瀬文庫	
	その他団体	北設楽花祭保存会、公益財団法人東海ジェンダー研究所、国立女性教育会館、特定非営利活動法人難民支援室	
2020年度	自治体史等	愛知県史、知立市史、西尾市史（4件）、豊田市史、新修豊田市史（2件）、小松市史、新修鳥取市史、明石市史	
	文化財調査事業等	愛知県、名古屋市、岡崎市（2件）、稲沢市（2件）、豊田市、豊川市（2件）、一宮市、あま市、岐阜県垂井町・白川町・大垣市（2件）、福島県只見町・金山町、長野県阿智村・飯田市	
	博物館美術館等	名古屋市博物館（2件）、特別史跡名古屋城、愛知県埋蔵文化センター、西尾市岩瀬文庫、国立歴史民俗博物館（2件）、静岡県立美術館、三重県立美術館、大学共同利用機関法人国文学研究資料館、花祭会館、ハーバード美術館	西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍のデータベース
	その他団体	名古屋テレビ、大須観音真福寺、大須商工会議所、特定非営利活動法人名古屋難民支援室、中部日本ミツパチの会、一般財団法人日ロ友好愛知の会、サントリー文化財団、国立女性教育会館、公益財団法人東海ジェンダー研究所	『高校国語教科書』、『新修豊田市史』通史編5近代

編集委員

古 尾 谷 知 浩

星 野 幸 代

池 内 敏
(教育研究推進室室長)

梶 原 義 実

宮 地 朝 子

佐 野 誠 子

宇 都 木 昭

(アルファベット順)

年報2020 名古屋大学大学院人文学研究科教育研究推進室

2022年1月31日発行

発行 名古屋大学大学院人文学研究科教育研究推進室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL (052)747-6391

組版 株式会社あるむ

〒460-0012 名古屋市中区千代田3-1-12
TEL (052)332-0861
